

平成26年度全国学力・学習状況調査の概要について

1 実施概要

(1) 実施日 平成26年4月22日(火)

(2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査内容

①教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・主として「知識」に関する問題(A問題)
- ・主として「活用」に関する問題(B問題)

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 実施学校数 悉皆調査

	全学校数	調査対象児童生徒の 在籍する学校数	4月22日に調査を 実施した学校数
市町立小学校	226	226	226
特別支援学校(小学部)	12	3	3
市町立中学校	97	97	97
県立中学校	3	3	3
特別支援学校(中学部)	12	3	3
公立学校計	350	332	332

2 教科に関する調査の実施結果(公立)

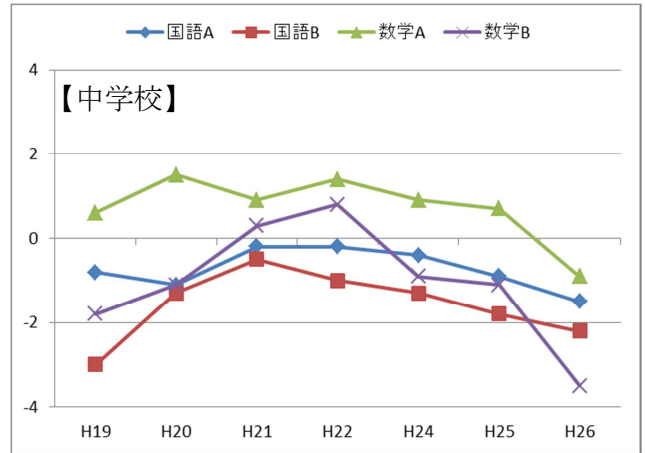
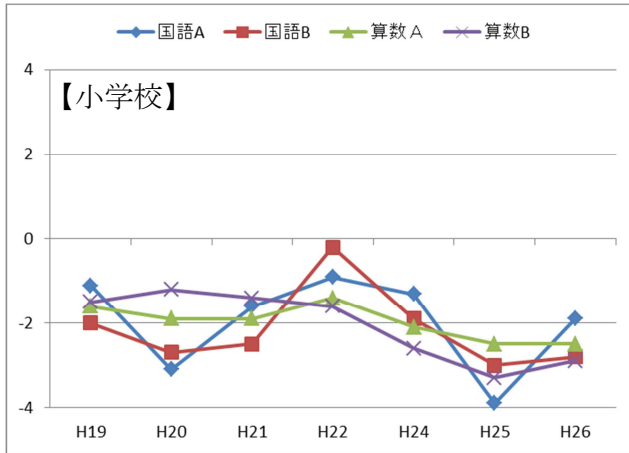
○平均正答数(平均正答率)

	教科等	国語		算数・数学	
		A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
小学校	滋賀県	10.7(71.0%)	5.3(52.7%)	12.8(75.6%)	7.2(55.3%)
	全国	10.9(72.9%)	5.5(55.5%)	13.3(78.1%)	7.6(58.2%)
中学校	滋賀県	24.9(77.9%)	4.4(48.8%)	24.0(66.5%)	8.4(56.3%)
	全国	25.4(79.4%)	4.6(51.0%)	24.3(67.4%)	9.0(59.8%)

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

〈滋賀県の平均正答率と全国平均の差の推移〉

※平成 22 年度・24 年度は抽出調査のため誤差± 1 % 程度の精度であり、参考値。



本県では、全国学力・学習状況調査を分析し、課題を明らかにして、次の5つの視点をもとに、学力向上の取組を進めている。

〈滋賀県の学力向上を図る5つの視点〉

- ① 子どもが意見や考えを交流すること
- ② 学びの姿勢や態度につながることに
- ③ 一人ひとりに応じたきめ細かな指導
- ④ 主体的な学びとなる家庭学習を促すこと
- ⑤ 教師間で課題を共有すること

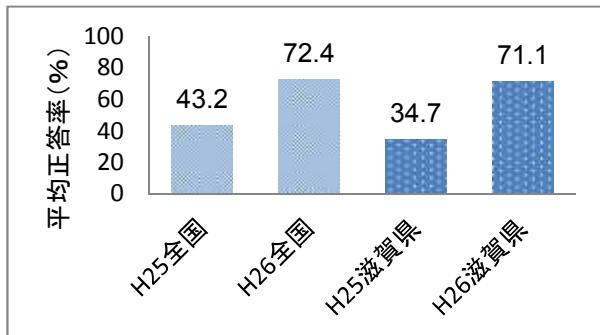
(1) 子どもが意見や考えを交流すること

国語 A の「話すこと・聞くこと」の問題における平均正答率が小学校で改善

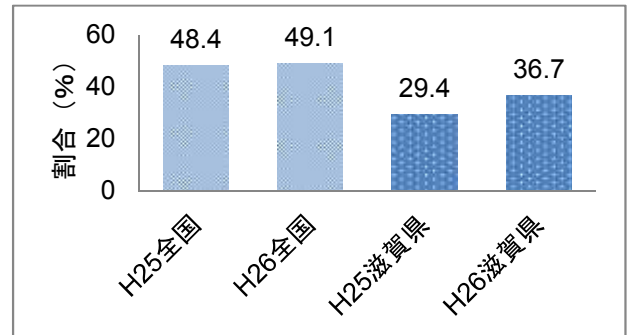
学校質問紙 小(38) 中(38)

学級やグループで話し合う活動を授業などで行った学校の割合が増加しているが十分でない

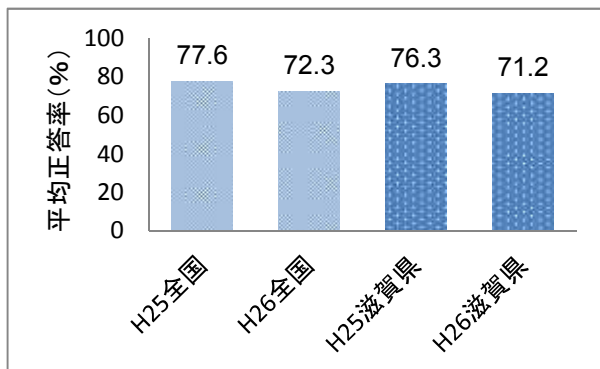
【小学校】



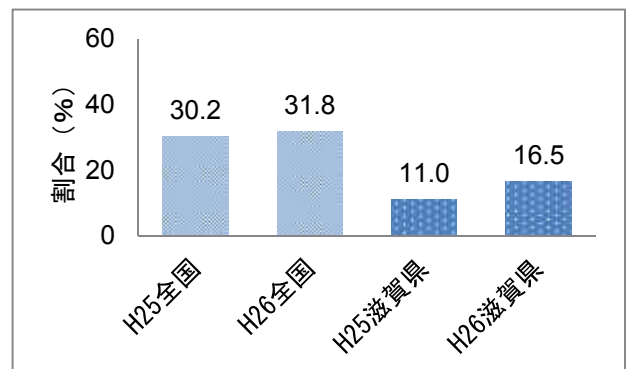
【小学校】(よく行っていると答えた学校)



【中学校】



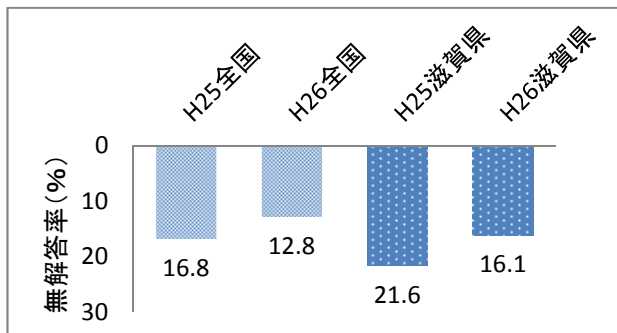
【中学校】(よく行っていると答えた学校)



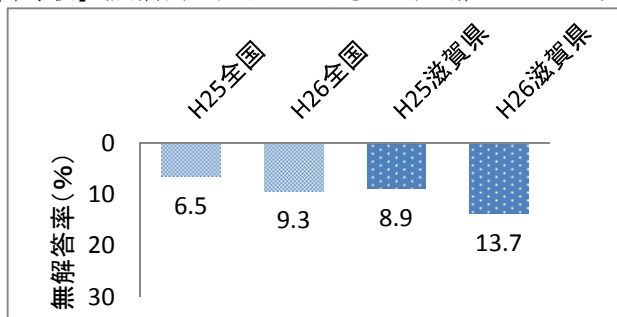
(2) 学びの姿勢や態度につながること

全国との比較で、国語の記述式問題の答えを書かなかった児童生徒が小学校で減少、中学校で増加

【小学校】（無解答率が少ないほどあきらめずに解いたといえる）



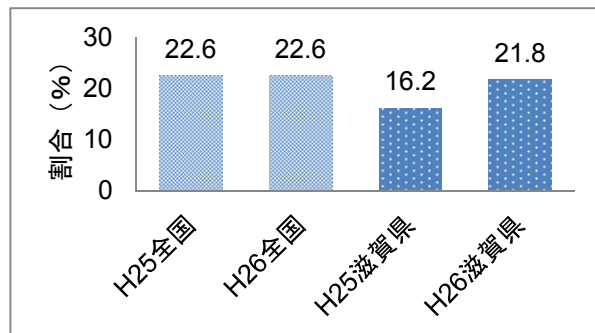
【中学校】（無解答率が少ないほどあきらめずに解いたといえる）



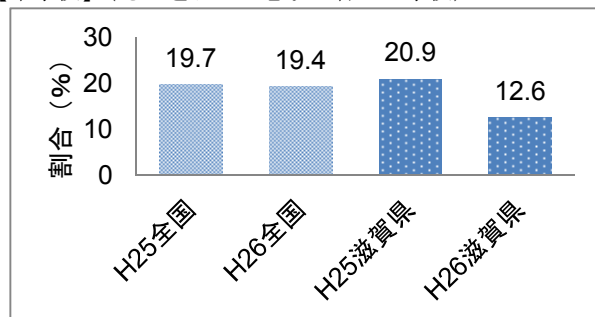
学校質問紙 小(15) 中(15)

児童・生徒は、熱意をもって勉強していると答えた学校が小学校で増加、中学校は減少

【小学校】（その通りだと思うと答えた学校）



【中学校】（その通りだと思うと答えた学校）

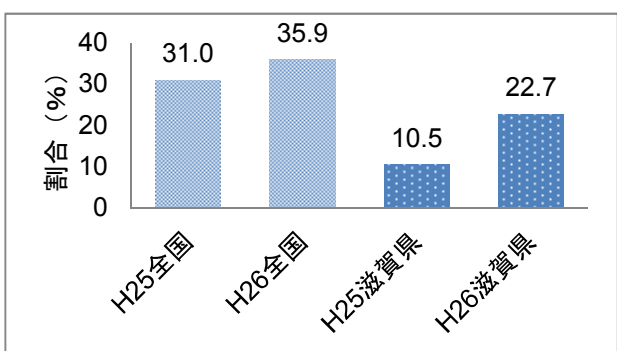


(3) 一人ひとりに応じたきめ細かな指導

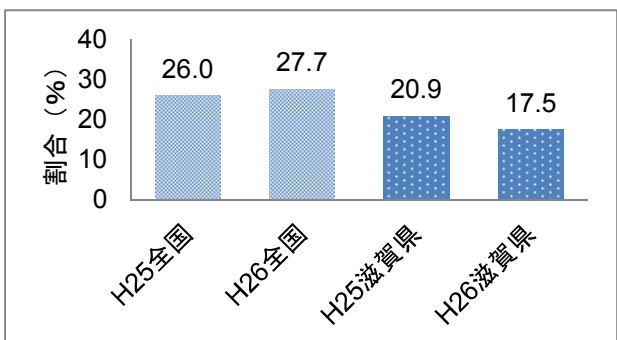
学校質問紙 小(66) 中(65)

算数（数学）の授業で、補充的な学習をしている学校の割合が、小学校で増加、中学校は減少

【小学校】（よく行っていると答えた学校）



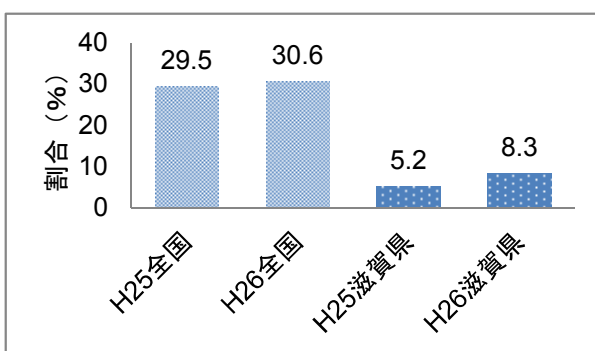
【中学校】（よく行っていると答えた学校）



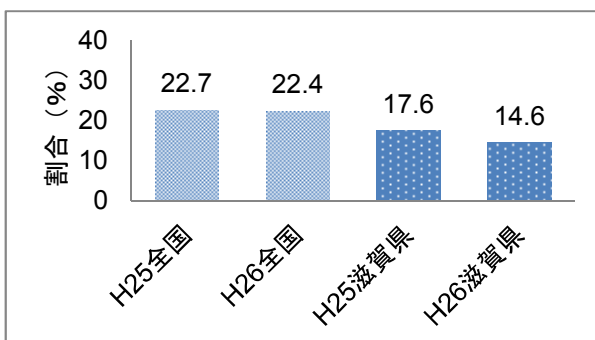
学校質問紙 小(25) 中(25)

「放課後を利用した補充的な学習サポート」を週1回以上実施する中学校の割合が減少

【小学校】（週1回以上行っていると答えた学校）



【中学校】（週1回以上行っていると答えた学校）

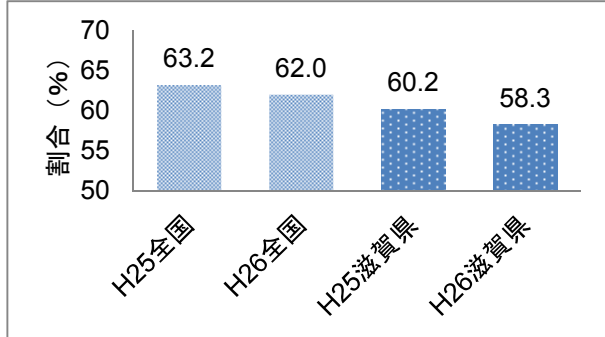


(4) 主体的な学びとなる家庭学習を促すこと

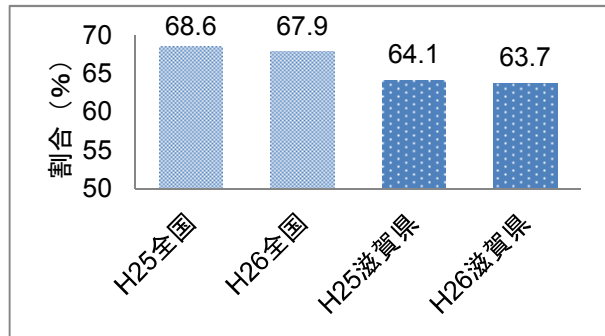
児童生徒質問紙 小(14) 中(14)

授業時間以外で普段(月～金曜日), 1日当たり1時間以上勉強すると答えた児童・生徒が減少

【小学校】(1時間以上すると答えた児童)



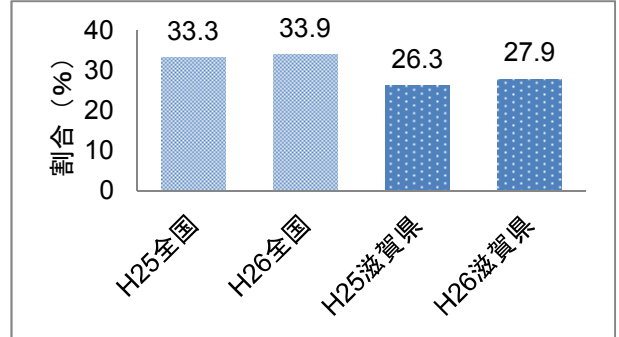
【中学校】(1時間以上すると答えた生徒)



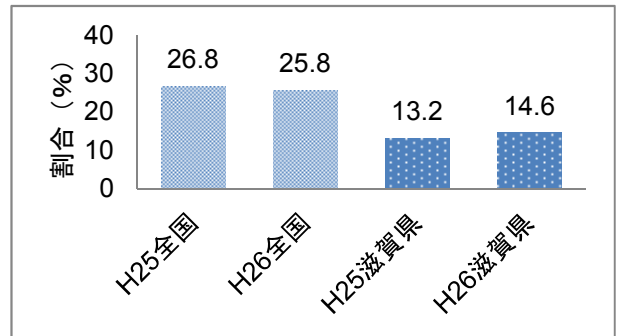
学校質問紙 小(87) 中(85)

児童(生徒)に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える学校がやや増加

【小学校】(よく行っていると答えた学校)



【中学校】(よく行っていると答えた学校)

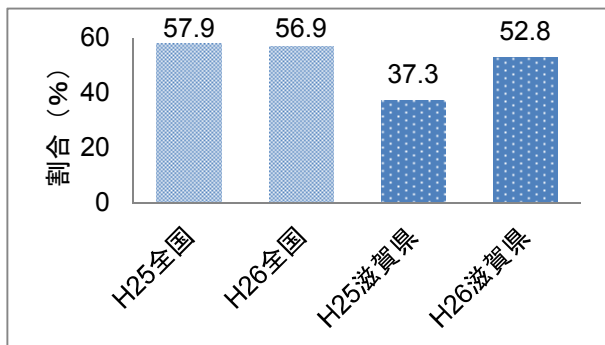


(5) 教師間で課題を共有すること

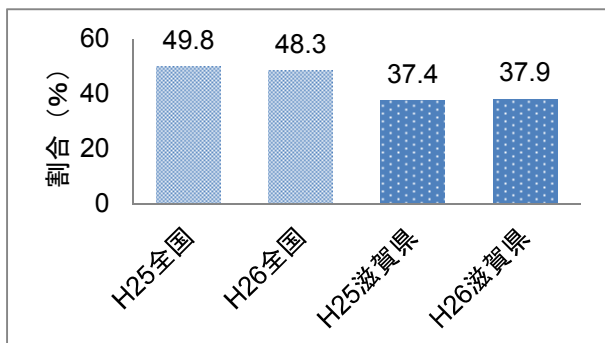
学校質問紙 小(99) 中(97)

学校全体の学力傾向や課題について, 全教職員の間で共有している小学校が大幅に増加

【小学校】(よくしていると答えた学校)



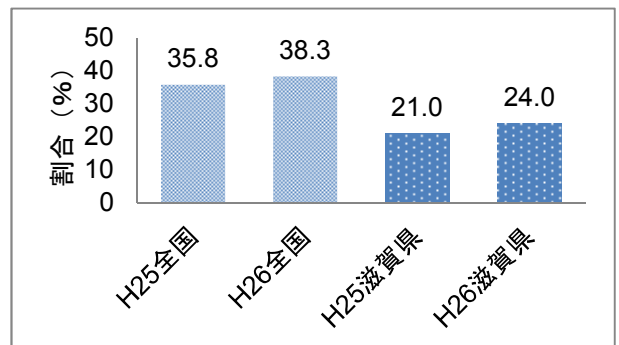
【中学校】(よくしていると答えた学校)



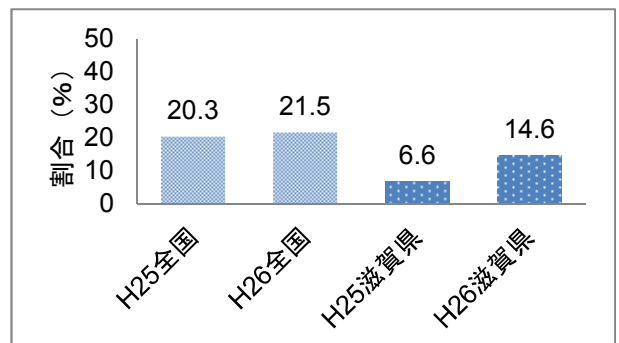
学校質問紙 小(91) 中(89)

授業研究を伴う校内研修を年間11回以上行った小・中学校がともに増加

【小学校】



【中学校】



(6) 児童生徒の学習・生活習慣の状況

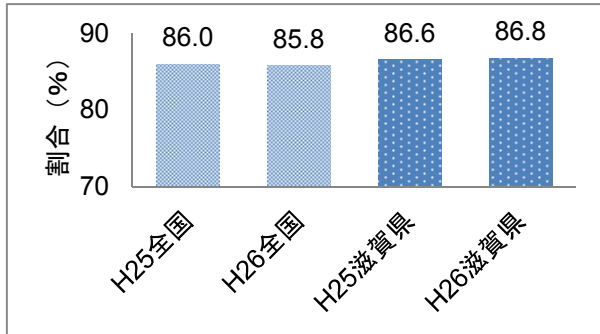
児童生徒質問紙 小(11) 中(11)

1日当たり1時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする(テレビゲームを除く)児童・生徒の割合が全国より高い

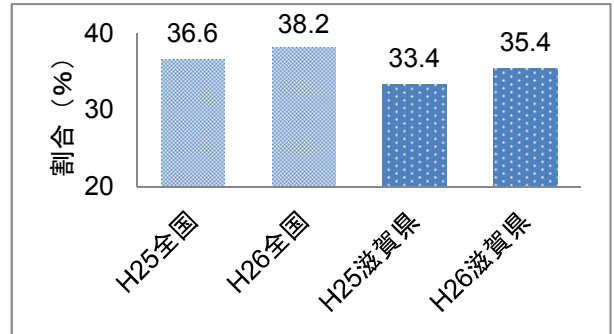
児童生徒質問紙 小(17) 中(17)

1日当たり30分以上、読書をする(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)児童・生徒がやや増加

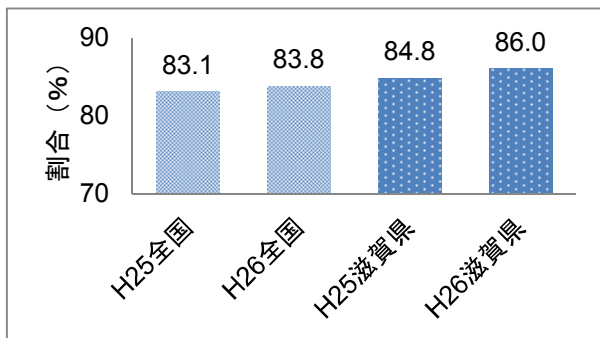
【小学校】(1時間以上すると答えた児童)



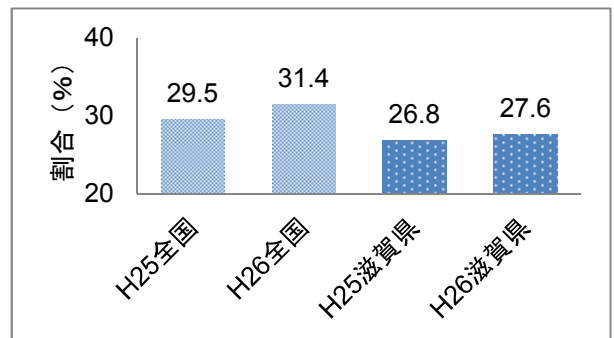
【小学校】(30分以上すると答えた児童)



【中学校】(1時間以上すると答えた生徒)



【中学校】(30分以上すると答えた生徒)



平成25年度に比較して改善している点

- 学校全体で取り組み、教師間で課題を共有したことで、教員の授業改善への意識が高まってきた。
- 子どもたちがあきらめずに学習課題に取り組む姿勢が伸びてきた。
- 小学校は全国との差が縮まってきた。
 - ・学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している小学校が15.5%増加。
 - ・国語の記述式の問題で答えを書かなかった児童が、小学校で5.5%減少。
 - ・小学校国語Aの「話すこと・聞くこと」の平均正答率の全国との差が8.5%から1.3%に減少。

平成25年度に比較して改善を必要とする点

- 補充的な学習の機会を増やす。
- 家庭で自ら学習する時間を増やす。
- 中学校で全国との差を縮める。
 - ・放課後の補充的な学習サポートを週1回以上行う中学校は3%減少、小学校は全国と比較して22.3%低い。
 - ・1日1時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童が1%、生徒が2.2%全国より多い。
 - ・普段の学習時間が、1日当たり1時間以上勉強する児童が1.9%、生徒が0.4%減少。

結果の概要

昨年度から、本県では5つの視点をもとに、市町教育委員会や学校とともに、言語活動を多く取り入れるような授業への改善を図ってきた。実際に、授業改善のために、学校全体の学力傾向や課題を教師間で共有したり、授業研究を伴う校内研修を行う学校が増加しているなど、改善に向かっている項目もある。しかし、全国よりも低い項目もあり、さらに取組を進める必要がある。

また、本県の子どもたちは、1日1時間以上のテレビやビデオ・DVDを観たり、聞いたりしている割合が高いのに対して、家や図書館での学習時間や読書時間が短い。このようなことから、子どもたちが主体的に学ぶ態度の育成に取り組む必要がある。

○今後の改善策

(1) 子どもが意見や考えを交流すること

- ・各教科等の指導のねらいを明確にしたうえで、言語活動を適切に位置付ける。
- ・授業の終わりに学習の振り返りを書かせる時間を設定する。
- ・様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行う。
- ・学級やグループで話し合う活動を授業に取り入れる。
- ・資料を使って発表ができるよう指導を行う。

(2) 学びの姿勢や態度につながること

- ・私語をしないことや、話をしている人の方を向いて聞くなどの学習規律を維持徹底する。
- ・ノートに自分の考えだけでなく、他の人の考えを踏まえて、なぜそう考えたか、理由を書く。
- ・テストの間違えたところを振り返ることで、どこでつまづいているか確認する。
- ・学級やグループで取り組んだり、挑戦したりする課題やテーマを与える。

(3) 一人ひとりに応じたきめ細かな指導

- ・少人数学級編制や少人数指導などの教育環境を整備し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行う。
- ・放課後等を利用した補充学習等を行う。

(4) 主体的な学びとなる家庭学習を促すこと

- ・調べたり文章を書いたりする宿題を与え、子ども自ら家庭で学習する習慣をつける。

(5) 教師間で課題を共有すること

- ・校内外の研修や研究会に参加し、その成果を積極的に校内で広げ、実践する。
- ・自校採点やその分析をすることで、子どもの課題を明確にし、すぐ手立てを打つ。

(6) 児童生徒の学習・生活習慣の状況

- ・テレビやゲーム、インターネットの時間を減らし、体を動かしたり、読書や家族との会話の時間を増やす。